

「故郷の家・京都」で入所者らと談笑する田内基さん(中央)＝京都市南区、荒元忠彦撮影



- 主な日韓史と田内基さんの足跡** (写真提供は田内基さん)
- 1910 日本が韓国を併合
 - 28 父が孤児院「木浦共生園」を設立
 - 38 両親が結婚
 - 41 田内千鶴子さん(左)と尹敬浩さん
 - 42 太平洋戦争始まる
 - 45 終戦
 - 48 韓国と北朝鮮が成立
 - 50 朝鮮戦争始まる
 - 51 父が消息不明に
 - 63 母が日本人初の韓国文化勲章受章
 - 64 東京五輪
 - 65 日韓国交正常化
 - 68 母が死去。田内さんが木浦共生園の園長に
 - 77 ソウルに卒園者向けの職業訓練院を開設
 - 82 田内さん一家が来日
 - 87 韓国の社会福祉士協会会長に就任
 - 88 ソウル五輪

発想 高く評価

映画「愛の黙示録」のPRに協力した評論家で東京家政大名誉教授の樋口恵子さん。故郷は心身に宿る。その最たるものが言葉と食事だ。ごく近く直前に「梅干しを食べたい」と日本語で

話した母の思いから在日コリアンに目を向けた田内基さんの発想を高く評価した。人生の最後を周りの支えで安らかに過ごす。その当たり前のことを実践する田内さんの取り組みは、日韓両国が直面する超高齢化社会に対応するうえで重要な道しるべになるはずだ。

子供に希望を施設・バス寄贈

長瀬アガリンさん(左)と田内基さん(右)が、在日コリアン女性の人権啓発活動「KAFIN」事務所、豊田市で、10月28日午後2時から、豊田市田内町町のサンズシアターで開かれ、大賞の田内基さんが記念講演する。参加無料。住所、氏名、電話番号、参加人数を記し、はがき「〒480-0078 豊田市南区南町3の1」に送り、問い合わせは同課(076-2222-7111)。

長瀬アガリンさん(左)と田内基さん(右)が、在日コリアン女性の人権啓発活動「KAFIN」事務所、豊田市で、10月28日午後2時から、豊田市田内町町のサンズシアターで開かれ、大賞の田内基さんが記念講演する。参加無料。住所、氏名、電話番号、参加人数を記し、はがき「〒480-0078 豊田市南区南町3の1」に送り、問い合わせは同課(076-2222-7111)。

「故郷の家・京都」で入所者らと談笑する田内基さん(中央)＝京都市南区、荒元忠彦撮影

共に生きている

特別支援老人ホーム「故郷の家・京都」は、京都市南区の蒲川のほとりにある。今日は暑い。異色はとうとう「だ」。いよいよかなかな田内基さんが韓国語と日本語を交えて話しかけると、入所者のルゼ「おはようございます。私は大丈夫。この暑いと夏はいい。在日コリアンと日本人を取った朝鮮半島出身者40人が暮らす。20人が一時帰国している。16歳で韓国から日本に渡った個性(9)は資料整理などの仕事をしながら暮らしてきた。13年前に妻を失ったのは京都府で一人暮らし。帰る道に迷った。親類もいない。入籍を申し込んだ。この田内基さん。最後は安心できる場所を見つけた。田内基さん。

基さんが生まれたのは韓国西部の木浦というところ。高知県出身の母、田内千鶴子さんは教師。娘の仕事のため一家で朝鮮半島へ渡った。孤児院「木浦共生園」を運営するキリスト教団体の尹敬浩さんと出会い、周囲の反対を押し切って結婚。尹敬浩さん、一人娘だったため敬浩さんが田内家の長男になった。基さんは大卒で入籍して、自分

母の思い知り 在日高齢者に施設

が日本国争の混戦のなか、食料難に陥った父が消息を絶った。その後、孤児院を切り取り、母は「韓国孤児院のオモムシ(母)とたまたま、1960年に日本人として初めて韓国文化勲章を受章。68年、がんのため68歳で亡くなった。95年には、その生誕をテーマにした日韓合作映画「故郷の家」が製作された。

特別支援老人ホーム「故郷の家・京都」は、京都市南区の蒲川のほとりにある。今日は暑い。異色はとうとう「だ」。いよいよかなかな田内基さんが韓国語と日本語を交えて話しかけると、入所者のルゼ「おはようございます。私は大丈夫。この暑いと夏はいい。在日コリアンと日本人を取った朝鮮半島出身者40人が暮らす。20人が一時帰国している。16歳で韓国から日本に渡った個性(9)は資料整理などの仕事をしながら暮らしてきた。13年前に妻を失ったのは京都府で一人暮らし。帰る道に迷った。親類もいない。入籍を申し込んだ。この田内基さん。最後は安心できる場所を見つけた。田内基さん。

「この施設が、年をとった日本の暮らしに光があたさなかったかにはなれば、思いますが。そして、日韓共生の考えが正しく浸透することを願っています」「故郷の家」での食事時、テーブルには必ずナムチが並んでいる。

比女性の悩み 各地でサポート

長瀬アガリンさん(左)と田内基さん(右)が、在日コリアン女性の人権啓発活動「KAFIN」事務所、豊田市で、10月28日午後2時から、豊田市田内町町のサンズシアターで開かれ、大賞の田内基さんが記念講演する。参加無料。住所、氏名、電話番号、参加人数を記し、はがき「〒480-0078 豊田市南区南町3の1」に送り、問い合わせは同課(076-2222-7111)。

長瀬アガリンさん(左)と田内基さん(右)が、在日コリアン女性の人権啓発活動「KAFIN」事務所、豊田市で、10月28日午後2時から、豊田市田内町町のサンズシアターで開かれ、大賞の田内基さんが記念講演する。参加無料。住所、氏名、電話番号、参加人数を記し、はがき「〒480-0078 豊田市南区南町3の1」に送り、問い合わせは同課(076-2222-7111)。

特別支援老人ホーム「故郷の家・京都」は、京都市南区の蒲川のほとりにある。今日は暑い。異色はとうとう「だ」。いよいよかなかな田内基さんが韓国語と日本語を交えて話しかけると、入所者のルゼ「おはようございます。私は大丈夫。この暑いと夏はいい。在日コリアンと日本人を取った朝鮮半島出身者40人が暮らす。20人が一時帰国している。16歳で韓国から日本に渡った個性(9)は資料整理などの仕事をしながら暮らしてきた。13年前に妻を失ったのは京都府で一人暮らし。帰る道に迷った。親類もいない。入籍を申し込んだ。この田内基さん。最後は安心できる場所を見つけた。田内基さん。

大賞「こころの家族」理事長 田内基(韓国名・尹基)さん

特別支援老人ホーム「故郷の家・京都」は、京都市南区の蒲川のほとりにある。今日は暑い。異色はとうとう「だ」。いよいよかなかな田内基さんが韓国語と日本語を交えて話しかけると、入所者のルゼ「おはようございます。私は大丈夫。この暑いと夏はいい。在日コリアンと日本人を取った朝鮮半島出身者40人が暮らす。20人が一時帰国している。16歳で韓国から日本に渡った個性(9)は資料整理などの仕事をしながら暮らしてきた。13年前に妻を失ったのは京都府で一人暮らし。帰る道に迷った。親類もいない。入籍を申し込んだ。この田内基さん。最後は安心できる場所を見つけた。田内基さん。



10月授賞式 KAFIN代表 長瀬アガリンさん

長瀬アガリンさん(左)と田内基さん(右)が、在日コリアン女性の人権啓発活動「KAFIN」事務所、豊田市で、10月28日午後2時から、豊田市田内町町のサンズシアターで開かれ、大賞の田内基さんが記念講演する。参加無料。住所、氏名、電話番号、参加人数を記し、はがき「〒480-0078 豊田市南区南町3の1」に送り、問い合わせは同課(076-2222-7111)。

第2回「自由都市・堺 平和貢献賞」

特別支援老人ホーム「故郷の家・京都」は、京都市南区の蒲川のほとりにある。今日は暑い。異色はとうとう「だ」。いよいよかなかな田内基さんが韓国語と日本語を交えて話しかけると、入所者のルゼ「おはようございます。私は大丈夫。この暑いと夏はいい。在日コリアンと日本人を取った朝鮮半島出身者40人が暮らす。20人が一時帰国している。16歳で韓国から日本に渡った個性(9)は資料整理などの仕事をしながら暮らしてきた。13年前に妻を失ったのは京都府で一人暮らし。帰る道に迷った。親類もいない。入籍を申し込んだ。この田内基さん。最後は安心できる場所を見つけた。田内基さん。

特別支援老人ホーム「故郷の家・京都」は、京都市南区の蒲川のほとりにある。今日は暑い。異色はとうとう「だ」。いよいよかなかな田内基さんが韓国語と日本語を交えて話しかけると、入所者のルゼ「おはようございます。私は大丈夫。この暑いと夏はいい。在日コリアンと日本人を取った朝鮮半島出身者40人が暮らす。20人が一時帰国している。16歳で韓国から日本に渡った個性(9)は資料整理などの仕事をしながら暮らしてきた。13年前に妻を失ったのは京都府で一人暮らし。帰る道に迷った。親類もいない。入籍を申し込んだ。この田内基さん。最後は安心できる場所を見つけた。田内基さん。

「平和貢献賞」授賞式

国際平和や人権尊重に尽くす活動をしている個人・団体に贈る第2回「自由都市・堺平和貢献賞」（堺市主催、朝日新聞社後援）の授賞式が28日、堺市堺区で開かれた。在日コリアン向けの特別養護老人ホームなどを運営する社会福祉法人「こころの家族」（堺市）の理事長で、大賞を受賞した田内基（韓国名・尹基（ユン・キ））さん（68）＝写真Ⅱが記念講演し、「歴史を背負う在日コリアンが誇りを持って生きる社会をつくりたかった」と語った。



奨励賞のNGO「KAFIN」（埼玉県蕨市）代表の長瀬アガリンさん（47）と、団体で同賞を受賞したNGO「アフガン孤児支援ラーク会」（奈良県生駒市）代表の柄子（から）真弓さん（69）もあいさつし、在日フィリピン人女性やアフガニスタン孤児を支援している活動を紹介した。

◇ 11月3日付の朝刊で特集します。

堺・平和貢献賞 大賞の田内さん 福祉基金創設へ

「地元の堺で認められたのが何よりうれしい」。28日、堺市で第2回「自由都市・堺平和貢献賞」（朝日新聞社後援）の授賞式があり、大賞を贈られた社会福祉法人「こころの家族」理事長の田内基（韓国名・尹基）さん（68）＝写真Ⅱは記者会見で喜びを口にした。

田内さんは会見で、副賞の300万円を元に日韓国間で福祉に携わる個人・団体を支援する基金を創設する考えを示し、「東京や横浜、名古屋、広島など全国に10カ所、施設をつくりたい」と抱負を

記者会見する田内基さん（中央）ら＝堺市堺区、伊藤菜々子撮影



語った。

田内さんは韓国南西部の木浦市生まれ。1982年に生活の拠点を日本に移し、89年に堺市内で全国初の在日コリアン向け特別養護老人ホーム「故郷の家」を設立。大阪、神戸、京都各市にも施設をつくる一方、社会福祉を学ぶ韓国の学生らの研修を受け入れてきた。（室矢英樹、多知川節子）